

## 野川台自治会

## あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会  
 発行者：野川台自治会長  
 川崎市宮前区  
 TEL.  
 協力：西野川小・野川中PTA、おやじの会  
 一葉会、すずの会、青少年指導員ほか  
 編集：福祉の風土づくりを進める会事務局



## 家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



あいさつ運動を始めてから 7 年目、子どもたちの思いに応じて「あいさつの輪」、  
 「さりげないお節介の輪」の拡がりを通じて心と心の“絆”づくりを皆さんの手で！

## あいさつは相手を尊敬する行為

西野川小学校 校長 高橋 順一

4 年生女子児童で、3 年生の始めからきちんと立ち止り、丁寧にお辞儀をし「校長先生、おはようございます」と挨拶する児童がいます。茶道の亭主と客の関係に似たものを感じます。つまり身分や立場や年齢を超え、人間と人間が相対し互いに敬意を払う一期一会の精神です。相手の生命をリスペクト（尊敬）し合う瞬間が「挨拶」だと実感しています。「愛察」と言う言葉を掲げたのもそんな意味を込めています。その児童に対し、私も一人の人間として尊敬の気持ちで、おはようございますと答えます。

「校長先生、おはようございます。」気がつけば、階段の上から私の背中に気持ちいいあいさつが降ってきます。校長室前で出会った子どもには、こちらから「おはようございます」、「こんにちは」と声をかけています。私の義務だと決めています。昨年からの二年間、あいさつの素晴らしさを何回朝会で話したことでしょう。また学校だけでなくその話を繰り返しました。

校門挨拶、朝の会だけの挨拶だけでなく、挨拶の日常化ができたのではないのでしょうか。次は、洒落た挨拶の出来る学校にしたいと考えています。

## 地域に支えられて

野川中学校 校長 北谷 辰雄

この 1 年の間に、地域から「挨拶のできる中学生が、多くなりましたね!」という喜ばしい声を聞く一方で、「生徒が道路を広がって歩いています」、「公園等で食い散らかしています」などの情報をいただきました。その都度、職員が出向き対応してきましたが、きっと連絡をしてくれた方は、その食い散らかしを何度も片付けたり、時にはいやな思いをしながら生徒への注意や指導をしていただいているのではないかと感謝しております。子どもたちの生活は、中学校まではこの野川地域が中心で、その地域の方々の支えが着実に

に成長しているのだと確信しています。地域は、学校以上に公衆道徳や社会のルールを学ぶ場でもあります。地域の方々からの情報は、子どもたちに対して高い関心を持って頂いている証だと私は感じています。家庭や学校だけでは、不十分な部分を地域の方々に支えられていることを改めて感じる時でもあります。これからも、元気で健やかな子どもたちの成長のため地域の方々の力は、必要不可欠なものです。その力が学校を支える力にもなっていることを深く感謝申し上げます。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

## あいさつを糸口に 親子のふれあいを!

野川の地域では、きょうも子どもたちの元気な声が聞こえているでしょうか。

家庭でも元気にあいさつが交わされていますか。

「おはよう」「いただきます」「行ってきます」「ただいま」「おやすみなさい」「ありがとう」など、何気ない言葉のようですが、生活にメリハリがつき、やさしい心が育まれていきます。

最近の調査では、子どもたちは多くのストレスを感じているといわれています。一番身近な家族にも心配をかけまいと、悩みを打ち明けずにいるケースもあると聞きます。でも、声の調子や表情に、その時の子どもの体調や気持ちが表れていることもあります。あいさつを糸口に、親子のふれあいを深めていけるといいですね。「しつかり見ているよ」というメッセージが伝わるとと思います。これからも、家庭・学校・地域で「あいさつ運動」が広がっていくことを願っています。

(宮前区役所こども支援室 室長 由利 珠美)



### 見えてきたあいさつ運動の姿！

近年、孤独死など痛ましいニュースが報じられ、人と人との繋がり希薄さが大きな社会問題になっています。そうした中で阪神淡路大震災や東日本大震災を機に地域の絆の大切さが再認識されています。しかし実際には絆づくりの具体的な姿が見えてこないという声も聞かれます。

私たち地域が、学校と一緒に進めていますあいさつ運動は、“絆づくり”の大きな要因と言えます。7年目を迎え即効薬ではありませんが、あいさつのもつ“不思議な力”を改めて実感しています。今回そんな“魔法の力”が何に繋がっているのかを見てみます。

#### 1 子どもの健やかな成長に

- あいさつすると何となく気持ちが良くすっきり
- あいさつはコミュニケーションの始まりで、心と心とのキャッチボール
- あいさつで親も子どもの日々の気持ちが読める

#### 2 地域全体での子育てに（地域の教育力の回復）

- 子どもたちには、地域の人に見守られ支えられているという意識が少しずつ芽生えて来ている
- 野川中学校区教育会議は、地域と学校・児童・生徒によるゴミ掃除を企画（雨で延期 来年度実施予定）

#### 3 犯罪や非行、地震防災への対応に

- 泥棒が犯行を取り止める理由の第一に「地域の人に見られたり、声をかけられたこと」の自覚
- 阪神淡路大震災の教訓から、いざという時に頼りになるのは近所のつながりの大切さを再認識

#### 4 支え合う福祉の風土づくりに

- 隣近所であいさつし合うことは、人を思う心や支え合ったりする関係が自然に醸成され、子育ての不安解消や身近なボランティア活動につながる

#### 5 あいさつの行きつく先はコミュニティ形成

- あいさつは人間生活の基本です。「あいさつの輪」、さりげない「お節介の輪」は子どもの健やかな成長や地域全体の子育てはもとより、防犯・防災、交通、環境美化、福祉の風土づくりなどコミュニティ活動全体にも通じていると受け止めています。その原点は、現代版の向う三軒両隣の絆づくり！



どんど焼き（西野川小おやじの会）

### 社会を明るくする運動で表彰！

— 西野川小学校、野川中学校 —

「社会を明るくする運動」宮前地区推進委員会は、毎年、良い行いをした青少年を表彰しています。

今年度の表彰は、団体の部として、地域と一緒にあいさつ運動をしている西野川小学校児童会運営委員会、演奏活動で地域に貢献している野川中学校吹奏楽部が2月7日、宮前市民館で表彰されました。おめでとうございます。



### 人間とは人と人との間柄的存在で、共に生きる関係！

東日本大震災からもうすぐ2年。改めて亡くなられた方に哀とうの意を表しますとともに被災された方に心からお見舞い申し上げます。

あの日、車や家をさらっていく津波、そして破壊されていく街の様子を映像で目の当たりにして、誰しもが、地震・津波の恐ろしさ、自然の力には、人間は無力であることをまざまざと思い知らされました。同時に今日がコンビニやインターネット社会である故に、ともすると一人でも生きていけると思いがちな我々にとって、震災を契機に、改めて家族や地域の絆の大切さを再認識させられました。

昭和初期に「古寺巡礼」や「風土」などの著書で知られています和辻哲郎氏がある書で、「人間とは、人と人との間柄のうちに存在し、共に生きる関係にある・・・」という旨のことを記していたことが思い起こされます。（野川台自治会 津田会長）



野川中芸術祭で、全校生徒が製作した30mに及ぶ点描画、約2万3千個の点を繋いだ壮大な作品（体育館掲載）





# あいさつは笑顔あふれるひみつの言葉



— 人とのふれあいの第一歩 —

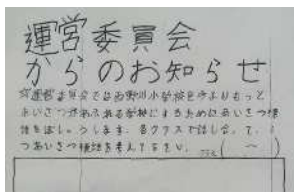
## あいさつの大切さ

西野川小学校 5年 シャリアリジャビド ケイハン

ぼくは、運営委員として月曜日と金曜日にあいさつ運動をしています。この活動を通して、あいさつがもっと色々な場で行われるといいなあと思いました。

あいさつの大切さは、した人もされた人も、うれしい気持ちになることです。学校の中で名前の知らない人とでも話せる唯一のコミュニケーションの言葉だということです。このあいさつをすることで友だちが広がることも考えられます。そう考えるとあいさつは、とても重要な役割をしているのだと思います。

昨年、学級であいさつの標語を考えました。「あいさつは笑顔あふれるひみつの言葉」に決まりました。この標語のように、これからも今まで以上に一人でも多くの人があいさつをしてくれるようなあいさつ運動をしたいと思います。



全クラスへ標語募集



玄関に貼られた標語シール



野川中学校の朝のあいさつ運動

## 気持ちよくなる不思議な言葉

野川中学校生活委員会委員長 小川 大智

自分は、あいさつはとても大切なものだと思います。なぜならあいさつは、人とのコミュニケーションになって会話をする機会になるからです。そして、あいさつをしても、されても嫌な気持ちにならず、嬉しい気持ちになり気持ち良くなる不思議な言葉だと自分は思います。そしてそんなあいさつをしたり、されることが自分はとても好きです。

今、野川中のあいさつ運動は、月曜日はサミットメンバーを中心にやっていて、火曜日から金曜日は週番長を中心に各クラスの生活委員が中心にやっています。また最近ボランティアをしてくれる人が多くとてもありがたいです。これからも野川中学校がさらにあいさつのあふれる学校にしたいです。

## あいさつをして、明るい教室に！

西野川小学校 3年生

わたしは、あいさつ運動をはじめは、はずかしくてあまりあいさつができませんでした。けれどやっとうちにだんだん慣れてきて、合い言葉みたいにかんじてきました。あいさつは元気になるので、これからも続けたいと思います。(うさみ はるな)

ぼくは、自分からあいさつをすると気持ちよくなるのであいさつをしています。知らない人でもあいさつをすると友だちのような気持ちになるので、知らない人でもあいさつをするようにがんばっています。(きむら ゆうと)

ぼくは、あいさつをするとういことがおきると思っています。だから、いっぱいあいさつをして明るい教室になってほしいです。みんな明るくなって、いい西野川小学校になってくれるとうれしいです。(よしい たつき)



## サンマが大事だ！

子どもが育つには、「サンマが大事だ！」と言われていきます。サンマと聞くと魚のサンマを思い浮かべてしまいそうですが、魚のサンマではありません。

時間、空間、仲間には、それぞれに「間」という字がありますね。この三つの「間」が三間(サンマ)なのです。この時間、空間、仲間がなぜ子どもが育つうえで大事なのでしょうか。

子どもが健やかに育つには、遊ぶ時間が大切です。「よく遊び、よく学べ」と言い伝えられています。広々とした場所(空間)で体を動かすことは、健康づくりには欠かせません。また人との接し方やマナーなど社会性を身に付けるには、仲間とのふれあいも必要です。なるほどサンマとは言い得て妙です。

さて、人とのふれあいの第一歩は挨拶からです。「あいさつの輪」も10号になりました。継続してあいさつ運動を続けてこられた地域の皆様の思い、真心の「ま」も子どもたちが育つための大切な「ま」の一つです。

(西野川小学校 前校長 榎本 重次)

# 学校と地域のつながり

## 学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

### “みんなで震災に備えよう”

東日本大震災以来、誰もが地震に対する不安を持っています。そんな気持ちに添えて西野川小学校おやじの会は、“みんなで震災に備えよう”をテーマに、災害想定訓練を9月に西野川小、日赤、区役所等の協力を得て実施し、こども、大人を併せて約80名が参加しま



日赤スタッフによる応急手当



児童の消火訓練

した。当日、日赤のスタッフによる応急手当の実演、ワークショップ形式での消火訓練、簡易担架の作り方、区役所提供のアルファー米による炊き出しを行う。そして事前にとったアンケート結果の内容を発表し、各家庭の備蓄品や、工夫・アイデア等を共有し合いました。参加者は、やはり災害時の助け合いは、日頃からの近所付き合いの大切さにあることを実感した一日でした。

(おやじの会は、佐藤達博会長)

### 福祉施設クロスハートで職場体験！

2年生10名が、1月下旬の火、水の二班に分かれて、小人数の認知症の方が一緒に生活している福祉施設「グループホーム・クロス



「大きな古時計」の演奏

ハート宮前・川崎」で職場体験。最初は、みな緊張し、どんな風に接したらよいのか不安の様子。そこを桜井ホーム長が上手くリードし、午前にはお風呂や食事の世話、午後にはフジスーパーへ。特に買い物は外出の機会の少ないお年寄りとマンツーマン方式で、カレライスの食材等の購入に寄り添いながら会話を交わす楽しい一時になりました。そうした中で、日頃できないことを体験し、楽しさだけでなく、大変さ、厳しさを感じ取っていることが伺えました。帰りがけにお礼に4人で「大きな古時計」を演奏し、お年寄りの拍手喝采を浴び、一日の体験学習を終えました。ホーム長から、皆さんのパワーがお年寄りに伝わっています。今日の体験をきっかけに皆さんの将来像を描くひとつの材料になっていただければ嬉しいとお話がありました。

(担当は熊谷先生)

### 駅伝部女子“県大会10位の好成績”

市総合体育大会の「駅伝」が、昨年10月に開催。我が野川中も校内で選抜された1年生から3年生の精鋭が参加。男子は19キロを



県大会出場者と応援団

6人で、女子は12キロを5人。それぞれ1本のたすきを繋げるプレッシャーのなかでの力走振りは、目を見張るものがありました。特に女子は、市大会53校中、第3位の好成績で、本校初めての県大会出場のキップを手にする快挙。県大会では、54校中10位の好成績をおさめました。しかし、選手たちは、9月から関東大会をめざし、練習を重ねてきたタイムを実力通り発揮できず、悔しさ一杯の様子。来年は、今年力走した1年生、2年生の4名が残っており、反省を通じて、みんなりベンジに燃えていることが伺えました。

(顧問は、総監督の平川先生と6名の体育科先生)

### 科学部 芸術祭でロックのBGMで映像発表！

全国の中学校で科学部のある学校は、3割程度。野川中学の科学部は、部員10名と小規模であるものの、ミミズ、トビムシなどの土



科学部のメンバー

中生物の観察、太陽の黒点観測、微生物の培養等独自のテーマをもって地道な研究活動に頑張っています。例年、研究成果は模造紙発表だけでしたが、今年は体育館で映像によるステージ発表に挑戦！ロック調のBGM(バックグランドミュージック)に合わせて、集合・離散する土中生物の映像を流すと女子生徒はキャーキャーと驚きの声をあげ、保護者達からは、臨場感溢れる映像に“今まで見たことが無い！”との声が聞かれました。部員もこの様子に意を強くし、来年の成果発表に繋げていければと思っています。

(顧問は、小塚、杉本先生)

### 編集後記

第10号の発行になりました。今年度は、特に公益財団法人キリン福祉財団のご支援を頂き、広報紙の発行、ベストの購入、標語シールの印刷・全戸配布ができ、お陰さまで運動にはづみがつきました。満6年にして、学校、地域の協力であいさつ運動の先が見えてきた感じがしています。引続きあいさつ運動を通じて絆づくりにご参加下さい。

(日高、原、辻本、後藤、鈴木)